

「振り真名付き」のくずし字教材

—くずし字を無理なく学ぶために—

福 嶋 健 伸

一 くずし字を無理なく学ぶための教材

福嶋（二〇一四・二〇一六）等で、くずし字を楽しく学ぶための教材案を提示した。本稿では、さらに別の教材を示したいと思う。文学作品の「振・り・真・名・付・き」のくずし字教材である。この教材は、くずし字の漢字部分にのみ、活字で漢字が示してあるというものである。仮名ではなく、漢字（真名）が振ってあることから、「振り真名付き」としている。

最初に、何故このような教材が必要なのかを説明しておきたい。

くずし字学習において、特に難しいのは、「漢字」だと思ふ。変体仮名を含む平仮名は、ある程度の時間をかけられ

ば、何とか読めるようになる。個人差はあるだろうが、数週間から数ヶ月といったところだろう。しかし、漢字のくずし字が入ってくると、話は別である。漢字のくずし字を読めるようになるには、相当の時間と経験が必要だからである。

さらにいえば、読めないくずし字があった場合、漢字のくずし字なのか、まだ読めない平仮名のくずし字なのか判断に迷うので、結局、そこで流れが止まってしまうことも多い。例えば、次のくずし字を見てもらいたい。

(1) 

『竹取物語』の冒頭、「(たけとりのおきな)といふもの
有けり」の部分である。○で囲んでいる箇所は「有」とい
う漢字であるが、この「有」が読めず、もしかすると自分
の知らない平仮名のくずし字なのか、と思ってしまうので
ある。『竹取物語』の冒頭であれば文脈を手がかりとして
読めるのかもしれないが、知らない文章であれば、読めな
い場合も多い。比較的漢字が少ないといわれる和文の平安
文学作品の中ですら、それなりに漢字は存在する。次ペー
ジ以降の『振り真名付き 竹取物語』を見て頂ければ、漢
字がある程度の割合で存在することがお分かり頂けるだろ
う。なお、『竹取物語』や『更級日記』等を調査した前田
(一九七二)によると、「一般の平仮名文では一〇パーセン
ト弱ぐらいの漢字を含んでいるものと思われる。」(一二五
頁、福嶋注…ここでいう「一般の平仮名文」とは、平安文
学作品等の文のことである)とのことである。およそ十文
字に一つの割合で漢字が出てくるとすれば、看過できぬ割
合である。

このため、漢字はごく少数なので気にしなくてもよい、
というわけにもいかない。つまり、漢字のくずし字が存在
することで、「くずし字資料を楽しむ」ということが、か
なり先送りになってしまっているのである(漢字のくずし
字が大きな負担になることについては、斎藤(二〇二〇))

等の最近の研究でも指摘されている)。

そこで、漢字を予め活字で示している「振り真名付き」
の教材が重要になってくる。

この教材であれば、学習者は、平仮名のくずし字に集中
できる。読めないくずし字があっても、それは、漢字のく
ずし字ではない(平仮名のくずし字である)と分かっている
のである。また、平仮名のくずし字さえ読めれば、資料
を読むことができるので、それなりに達成感も得られると
思う。さらに、漢字が活字で示されているとはいえ、何度
も漢字のくずし字を見ることになるので、長い目でみれば、
漢字のくずし字学習にとっても有効な教材なのではないか
と思う。

では、早速、「振り真名付き」の教材を示したいと思う。
整版本の『竹取物語』を元に教材を作成した。帝の命を
受けた、中臣房子が、かぐや姫に会いに来る場面である。
なお、教材冒頭の「ふりまなつき」のくずし字は、筆者(福
嶋)が、『竹取物語』のくずし字をもとに作成したもので
ある。

かろよふくま へひるま物語

物語

扱扱

かろち乃世は無名にて へひるま物語

世似事

かろて肉付ありての へひるまの語あはく

内侍 給

乃人の身人 身とらうらよなすてあひさうくを

ひめきうけうらひ女女とまうらていんくま

きこのあもまこ承承くまうけりなびいらのま家家

よ畏てまやうじいあてあり女女内侍内 侍の給給ひ

仰事

候もよかくやひ免乃うちいよおとけまり能

※

※この箇所「うち」と読める。「かたち」とあるべきところを「うち」と誤ったものか。

能

見

見よまらり久きす一の給とせ候るめきんしまり

給

参

申侍

候もよかくやひ免乃うちいよおとけまり能

入

御使

ぬくやひめよとやうけ清使よきいめんし

給

るといひてはわがわがもまじくはちあはれあはれ

うくつんゆゑとてはいふともものいふまじくは
見

御門 御使
御門乃御使とていふてりてはせんといふ

りやむかしのあふむかす御門のあてのい

まらんりうーこたおしんはとあひくはま
事 共

見
んあへくもあはひむあ子乃あまはあま
子

いんあまうーけよなろきうなるあまは
心

あれまのまのまにまえあまはあまの
心

帰 出 口
ゆりせくくちゆーくのせいなれものいりく

侍 者
ゆりせくくちゆーくのせいなれものいりく 申

見 奉
ゆりせくくちゆーくのせいなれものいりく 仰
有 物 見

奉
ゆりせくくちゆーくのせいなれものいりく 帰 参
國王 乃 仰 事

世住給人承
まゝに世に宿給り人乃承にまゝにありん

給
かゝる世にあり給ひそとこもなり

云是聞
云はれ給ひ是とてあり給ひそとこもなり

國王仰事
もあはれ國王乃宿のそとこもなり

給
給
給
給
給
云

二 学習者のレベルにあわせて調整することも可能

如何だろうか。漢字を付しているところ以外は平仮名なので、「平仮名のくずし字学習」に、学習者は集中することができよう。

今回使用した部分は、多少かすれて読みにくいところがある。漢字が付していなければ、くずし字を学習したばかりの学習者にはかなり難しい。しかし、「振り真名付き」の教材を用いれば、平仮名が書いてあるという前提で読めるので、初学者であっても取り組むことが可能となる。かすれて読みにくい文字も、平仮名という限定した範囲で考えれば、いくつかの候補に絞ることができるためである。

さらにいえば、学習者のレベルにあわせて、「漢字に、さらに振り仮名をつける（例えば、「扱」では難しいと判断した場合、「扱さて」のようにする）、「行間に本文の説明を加える」等の工夫も可能である。

大橋（二〇二二）では、小学校高学年を対象とした、オンラインでも指導可能なくずし字教材コンテンツの開発を報告している。本稿の教材は、主に大学生を対象としたものであるが、学習者のレベルにあわせて調整することによって、より広い層にアプローチすることもできよう。

このような教材を作成していくことによって、一人でも

多くの方にくずし字読解を楽しんでもらえたらと思う。

引用文献

- 大橋直義（二〇二二）「小学校高学年を対象とした「くずし字」指導と文化財教育の融合」和歌山大学教育学部『和歌山大学教育学部共同研究事業成果報告書（2020）』四五―四六頁
- 斎藤達哉（二〇二〇）「変体仮名の効果的習得法に関する考察」専修大学人文科学研究所『人文科学年報』五〇号、一五九―一六九頁
- 福嶋健伸（二〇一四）「研究余滴」くずし字を楽しく学ぶための教材の開発―第二言語習得理論を参考に『定家本〇〇』を作成する―実践女子大学実践国文学会『実践国文学』八六号、七五―八四頁
- 福嶋健伸（二〇一六）「くずし字が大嫌いな学生」を「くずし字が大好きな学生」にするための研究―面白くて挫折できない教材の開発―日本国語教育学会『国語教育研究』五二七号、五〇―五七頁
- 前田富祺（一九七二）「仮名文における文字使用について―変体仮名と漢字使用の実態―」東北大学教養部『東北大学教養部紀要』一四号、九九―一三四頁

（ふくしま たけのぶ・実践女子大学教授）